

令和2年2月21日

各 県 立 学 校 長 様

豊 かな 心 育 成 課 長

児童生徒等に新型コロナウイルス感染症が発生した場合の対応について  
及び幼児児童生徒に新型コロナウイルス感染症（疑い）発生時の県立学  
校における対応（イメージ）の更新について（通知）

このことについて、文部科学省総合教育局生涯学習推進課、初等中等教育局健康教育・食育課、高等教育局企画課から別紙写しのとおり、事務連絡がありました。

児童生徒等に新型コロナウイルス感染症が発生した場合の出席停止及び臨時休業について、現時点での考え方が示されていますので、適切に対応してください。

併せて、「幼児児童生徒に新型コロナウイルス感染症（疑い）発生時の県立学校における対応（イメージ）」（令和2年2月17日付け豊かな心育成課長通知）を更新します。新型コロナウイルスの感染が疑われる患者の要件等に該当する児童生徒等については、「学校保健安全法第19条による出席停止」又は「非常変災等児童生徒又は保護者の責任に帰すことのできない事由で欠席した場合などで、校長が出席しなくてもよいと認めた日」として扱うことを判断するなど、適切に対応してください。

#### <新型コロナウイルスの感染が疑われる患者の要件等>（2/21 現在）

（1）次の①，②，③又は④に該当し，かつ他の感染症等によることが明らかでない者

区分	条 件	症 状
①	新型コロナウイルス感染症確定者と濃厚接触あり	発熱又は呼吸器症状（軽症の場合を含む）あり
②	発症前14日以内に中国湖北省及び浙江省に渡航又は居住あり	37.5℃以上の発熱かつ呼吸器症状あり
③	発症前14日以内に中国湖北省及び浙江省に渡航又は居住していた者と濃厚接触歴あり	
④	—	医師により集中治療等が必要かつ直ちに特定の感染症と診断できないと判断された発熱，呼吸器症状等あり

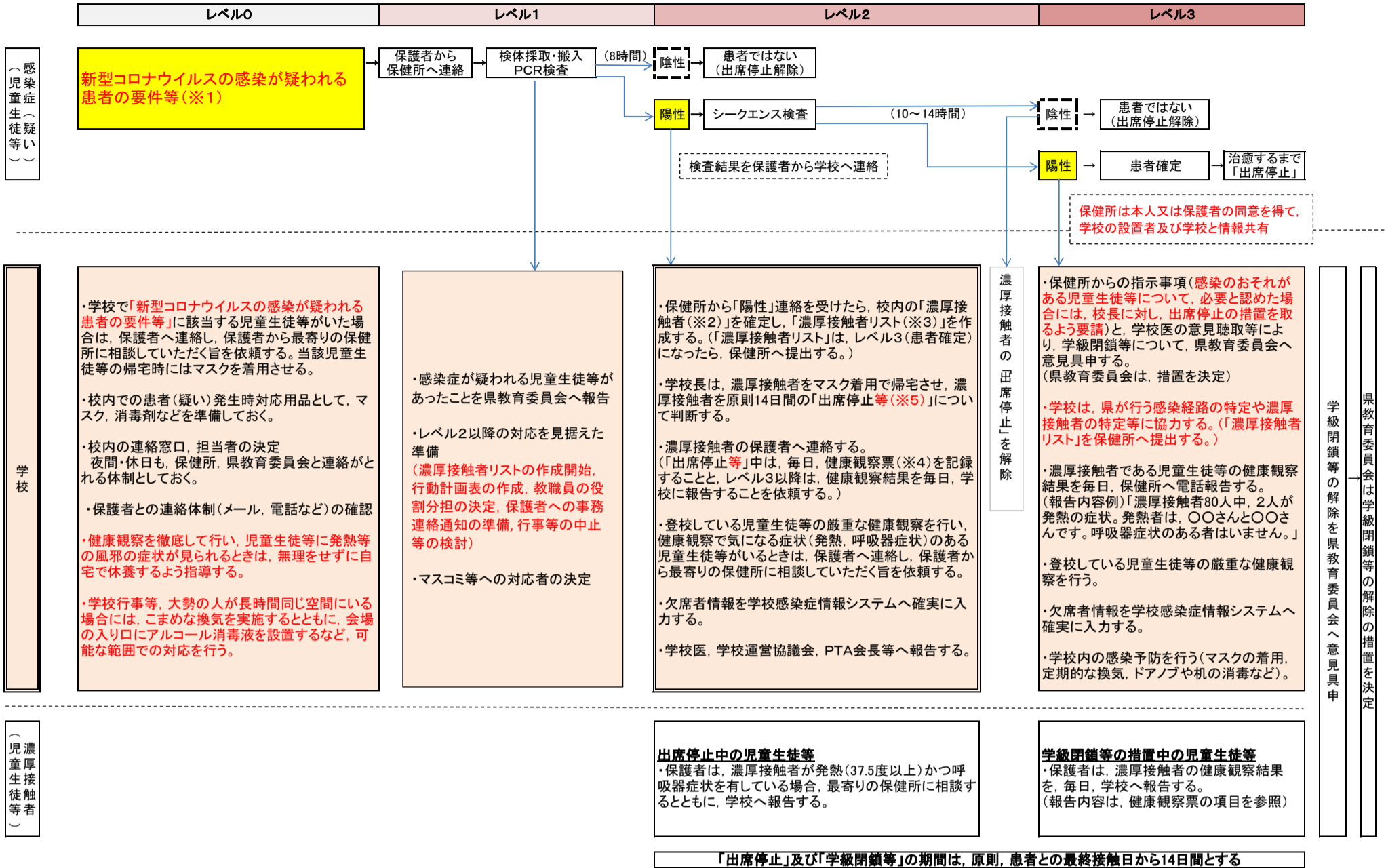
（2）（1）に加え，以下の状況にある者についても検査対象とする。

区分	状 況
⑤	37.5℃以上の発熱かつ呼吸器症状を有し，入院を要する肺炎が疑われる者（特に高齢者又は基礎疾患があるもの）
⑥	症状や新型コロナウイルス感染症患者の接触歴の有無など医師が総合的に判断した結果，新型コロナウイルス感染症と疑う者
⑦	新型コロナウイルス感染症以外の一般的な呼吸器感染症の病原体検査で陽性となった者であって，その治療への反応が乏しく症状が増悪した場合に，医師が総合的に判断した結果，新型コロナウイルス感染症と疑う者

担当 健康教育係  
電話 (082)513-5036 (ダイヤルイン)

幼児児童生徒に新型コロナウイルス感染症(疑い)発生時の県立学校における対応(イメージ)

令和2年2月21日現在  
広島県教育委員会  
豊かな心育成課



「出席停止」及び「学級閉鎖等」の期間は、原則、患者との最終接触日から14日間とする

◎感染症(疑い)の者が、教職員の場合も、同様の対応が必要となります。

※1 新型コロナウイルスの感染が疑われる患者の要件等(令和2年2月21日時点)

(1) 次の①, ②, ③又は④に該当し、かつ他の感染症等によることが明らかでない者

区分	条件	症状
①	新型コロナウイルス感染症確定者と濃厚接触あり	発熱又は呼吸器症状(軽症の場合を含む)あり
②	発症前14日以内に中国湖北省及び浙江省に渡航又は居住あり	37.5℃以上の発熱かつ呼吸器症状あり
③	発症前14日以内に中国湖北省及び浙江省に渡航又は居住していた者と濃厚接触歴あり	
④	—	医師により集中治療等が必要かつ直ちに特定の感染症と診断できないと判断された発熱, 呼吸器症状等あり

(2) (1)に加え、以下の状況にある者についても検査対象とする。

区分	状況
⑤	37.5℃以上の発熱かつ呼吸器症状を有し、入院を要する肺炎が疑われる者(特に基礎疾患があるもの)
⑥	症状や新型コロナウイルス感染症患者の接触歴の有無など医師が総合的に判断した結果、新型コロナウイルス感染症と疑う者
⑦	新型コロナウイルス感染症以外の一般的な呼吸器感染症の病原体検査で陽性となった者であって、その治療への反応が乏しく症状が増悪した場合に、医師が総合的に判断した結果、新型コロナウイルス感染症と疑う者

※2 濃厚接触者

・「新型コロナウイルス感染症(疑い)発生時の対応について」(令和2年2月6日付け通知)の「別紙1」

(例) 同一教室で授業を受けた(選択科目で1時間の場合も含む)。ランチルームで一緒に昼食をとった。同じ部活動で練習をした。

※3 濃厚接触者リスト

・「新型コロナウイルス感染症(疑い)発生時の対応について」(令和2年2月6日付け通知)の「別紙2」

※4 健康観察票

・「新型コロナウイルス感染症(疑い)発生時の対応について」(令和2年2月6日付け通知)の「別紙3」

※5 自宅休養した場合の出欠の扱い

・「学校保健安全法第19条による出席停止」又は「非常変災等児童生徒又は保護者の責任に帰すことのできない事由で欠席した場合などで、校長が出席しなくてもよいと認めた日」として扱うことができる。

事務連絡  
令和2年2月18日

**【重要】**

児童生徒等に新型コロナウイルス感染症が発生した場合の出席停止及び臨時休業について、現時点での考え方を示しますので、関係各位におかれては御一読をお願いいたします。

各都道府県・指定都市教育委員会総務課・学校保健担当課  
各都道府県教育委員会専修学校各種学校主管課  
各都道府県私立学校主管部課  
各国公立大学法人担当課  
大学又は高等専門学校を設置する各地方公共団体担当課  
各文部科学大臣所轄学校法人担当課  
大学を設置する各学校設置会社担当課  
構造改革特別区域法第12条第1項の認定を受けた各地方公共団体の学校設置会社担当課  
独立行政法人国立高等専門学校機構本部事務局担当課  
各都道府県・指定都市・中核市認定こども園主管課  
厚生労働省医政局医療経営支援課  
厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課

御中

文部科学省総合教育局生涯学習推進課  
文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課  
文部科学省高等教育局企画課

児童生徒等に新型コロナウイルス感染症が発生した場合の対応について

児童生徒等に新型コロナウイルス感染症が発生した場合に、事態に迅速に対処するため、文部科学省と厚生労働省において協議の上、当面の間の対応について、別紙のとおり取りまとめましたので、お知らせします。

都道府県・指定都市教育委員会におかれては所管の学校（専修学校及び各種学校を含む。以下同じ。）及び域内の市区町村教育委員会に対して、都道府県私立学校主管部課におかれては所轄の学校法人等を通じてその設置する学校に対して、国公立大学法人、大学又は高等専門学校を設置する地方公共団体、文部科学大臣所轄学校法人、大学を設

置する学校設置会社におかれてはその設置する学校に対して、構造改革特別区域法（平成14年法律第189号）第12条第1項の認定を受けた地方公共団体の学校設置会社担当課におかれては所轄の学校設置会社及び学校に対して、独立行政法人国立高等専門学校機構本部事務局におかれては所管の学校に対して、都道府県・指定都市・中核市認定こども園主管課におかれては所管の認定こども園及び域内の市区町村認定こども園主管課に対して、厚生労働省におかれては所管の専修学校に周知されるようお願いいたします。

<本件連絡先>

文部科学省：03-5253-4111（代表）

○公立学校（高等学校段階まで）

初等中等教育局 健康教育・食育課（内2918）

○私立学校

高等教育局 私学部 私学行政課（内2533）

○国立大学附属学校

総合教育政策局 教育人材政策課（内3498）

○国立大学

高等教育局 国立大学法人支援課（内3760）

○公立大学

高等教育局 大学振興課（内3370）

○高等専門学校

高等教育局 専門教育課（内3347）

○専修学校・各種学校

総合教育政策局 生涯学習推進課 専修学校教育振興室（内2939）

(別紙)

児童生徒等に新型コロナウイルス感染症が発生した場合の対応  
(2月18日時点)

【発生情報の学校等への連絡について】

1. 新型コロナウイルス感染症に罹患した児童生徒等について、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年10月2日法律第114号）第12条第1項の届け出を受けた都道府県、保健所を設置する市又は特別区（以下「都道府県等」という。）は、本人又は保護者の同意を得て、届け出を受けた内容について、学校の設置者及び学校と情報を共有する。  
(市区町村立の学校である場合には、都道府県等は、当該児童生徒等が在籍する学校が所在する市区町村に連絡し、連絡を受けた市区町村は、学校の設置者及び学校に連絡する。)

【出席停止の措置及び臨時休業の判断について】

2. 校長は、当該児童生徒等に対して、治癒するまでの間、学校保健安全法（昭和33年4月10日法律第56号）第19条の出席停止の措置を取る。また、学校の設置者及び学校は、都道府県等が行う感染経路の特定や濃厚接触者の特定等に協力する。
3. 都道府県等は、主に地域での流行早期の段階に行われる公衆衛生対策の観点からの休業の必要性の有無について判断し、必要であると判断した場合、学校の設置者に対し、学校の全部または一部の臨時休業を要請する。  
また、都道府県等は、感染のおそれがある児童生徒等について、必要と認めた場合には、校長に対し、出席停止の措置を取るよう要請する。
4. 都道府県等から臨時休業の要請がない場合であっても、学校の設置者は、例えば、地域ですでに感染が拡大しており、学校において多数の発症者がいる場合などには、学校運営上の対策を講じる目的などの観点から必要な臨時休業を行うことができる。その場合には休業等に伴う学習面への影響等を十分に考慮し、必要に応じて都道府県等と相談の上、判断することが重要である。

(参考) 学校保健安全法

第十九条 校長は、感染症にかかっており、かかっている疑いがあり、又はかかるおそれのある児童生徒等があるときは、政令で定めるところにより、出席を停止させることができる。

第二十条 学校の設置者は、感染症の予防上必要があるときは、臨時に、学校の全部又は一部の休業を行うことができる。

【地域住民や保護者への情報提供等】

5. 都道府県等は、地域の住民等に対し、正しい理解を得るための必要な情報を提供するとともに、学校の設置者と連携して、学校を通じ、保護者等に対しても、同様に情報を提供する。